

中学生海外研修2026

2026.8.13

Vol.5



オーストラリア直送レポート

ドリップストーン校グループ

教育委員会社会教育課 栗栖 / 吉備中学校 平野

ドライバー・ローズベリー校グループ

教育委員会社会教育課 高垣 / 御霊小学校 生駒

オーストラリアの自然と動物を感じた一日！

ドリップストーン校

8月13日（木）、ドリップストーン校での学校生活もいよいよ最終日を迎えました（金曜日は1日校外学習）。これまでの学校生活を通して、少しずつ現地の生徒たちとの距離を縮めてきた生徒たち。今日は、さまざまな授業を通して、最後まで交流を深めました。

1時間目のPE（体育）では、サッカーやバレーボールに取り組みました。これまでにスポーツを通じた交流を重ねてきたこともあり、現地の生徒たちと一緒に体を動かしながら、自然と笑顔が広がっていました。

2時間目は、数学と日本語の授業です。

数学では、オーストラリアの生徒3人と日本人の生徒1人でグループになり、一緒に問題に取り組みました。問題文は英語で書かれており、英語を使いながら互いに考えを伝えます。答えの数字は英語と日本語の両方で記入しました。「自分はこう思う」「あなたの考えはどう？」と、それぞれが自分の考えを伝えながら一緒に答えを導いていく姿が印象的でした。英語を学ぶだけでなく、英語を使って「一緒に考える」という、まさに今回の研修で大切にしてきた交流の姿が見られました。

日本語の授業では、日本のおばけを題材にしたキーワードラリーに挑戦しました。オーストラリアの生徒3人と日本人の生徒1人のグループに分かれ、おばけの説明を読みながら、一緒に問題を解いていきます。

最後には、それぞれの問題文を英語にして、現地の生徒たちに説明しました。日本の文化について、自分たちが知っていることを英語で伝える生徒たち。その中には、「ちょうちん」を「日本の伝統的なランタン」と表現して説明する生徒もいました。相手の生徒が「なるほど」と理解してくれた様子を見て、嬉しそうな表情を浮かべていました。

授業後には、4人の生徒が自分たちの研修テーマについて先生に質問しました。自分たち

で考えた質問を英語で尋ねると、先生から「とてもよく考えられた質問だね」と声をかけてもらう場面も。これまで準備してきた研修テーマについて、実際に現地で聞き、学ぶ姿が見られました。

音楽の授業では、まず現地の生徒たちが練習していた曲を聞き、その後、一緒に楽器を演奏しました。初めてベースやギター、ピアノに触れる生徒もいましたが、現地の生徒たちに教えてもらいながら、一緒に演奏に挑戦。最初は慣れない楽器に戸惑いながらも、教えてもらったり、教えたりしながら、みんなで一つの曲を完成させました。

中には、指に血豆ができるほど一生懸命に演奏した生徒も。それほど夢中になって取り組んだ音楽の時間を終えると、「楽しかった」「一番の思い出になった」と話す生徒もいました。

言葉が十分に通じなくても、音楽なら一緒に楽しむことができる。そんなことを実感できる、心に残る時間となりました。

クッキングの授業では、現地でよく食べられている食べ物を作りました。英語で書かれたメニューを現地の生徒と一緒に確認しながら、協力して調理に挑戦。オーストラリアならではの食文化に触れる機会となりました。

また、オーストラリアで親しまれている「ベジマイト」を初めて食べた生徒からは、「しょっぱいけど美味しい！」という声も聞かれました。食べ物をきっかけに、文化の違いを楽しみながら体験することができました。

そして、学校生活の最後には、お別れ会が行われました。一人ひとりに、DSC (Dripstone Secondary College) の刺繍が入った帽子とお菓子、そして修了証が手渡されました。

現地の生徒や先生たちからの温かい拍手に包まれながら、生徒たちは笑顔で一人ずつ修了証とプレゼントを受け取りました。

初めて学校を訪れた日の Welcome Assembly では、大勢の現地生徒の前で英語を話すことに緊張していた生徒たち。しかし、数日間の学校生活を通して、授業やスポーツ、音楽、料理など、さまざまな活動と一緒に経験してきました。

英語で考えを伝え、日本の文化を紹介し、現地の生徒に教えてもらいながら新しいことに挑戦する。最初は「英語で話しかける」ことから始まった交流が、最後には「一緒に学び、一緒に楽しむ」交流へと変わっていきました。

ドリップストーン校で過ごした日々は、生徒たちにとって、英語やオーストラリアの文化を学ぶだけでなく、言葉の壁を越えて人とつながることの楽しさを実感する時間になったのではないのでしょうか。

そして、学校終わりの 16 時から、団長とそのペアの生徒とダーウィン市長を表敬訪問しました。ここでも生徒たちは、質問や自分の考えをしっかりと英語で伝えていました。市長にお話いただいた内容がかなり難しい場面もありましたが、良い経験になったのではないかと思います。

明日は、1 日校外学習の日です。研修の締めくくりとして、最後まで様々なことを学び、交流を深めてほしいと思います。



ドライバー・ローズベリー校

今日は、ローズベリー校でさまざまな教科の授業を体験しました。

1時間目は数学の授業です。サイコロやカードを使った数当てゲームに挑戦しました。このゲームのルールを理解することも簡単ではありませんでしたが、子どもたちは翻訳機能を使ったり、現地の友達に聞いたりしながら、協力して考えていました。

2時間目はドラマの授業でした。日本には馴染みのないドラマという教科。ドラマの起源や、ドラマを構成するさまざまな要素について学びました。アリーナボールという空間認識を使ったゲームでは、みんなで声を掛け合いながら大いに盛り上がりました。また、「Zip Zap Zop」や、相手の名前を呼びながら打ち合う「バンゲーム」では、集中力を高めながら楽しく交流することができました。

リセスでは、温かいミートパイやフルーツをいただきました。オーストラリアならではの食文化にも触れ、友達と一緒に楽しい時間を過ごしました。

3時間目は二つのグループに分かれて活動しました。一つのグループは、アメリカとの戦争の歴史について学び、もう一つのグループは、アボリジニーの方々から、伝統的な生活や文化について学ぶ体験をしました。教科書だけでは知ることのできない歴史や文化に触れ、オーストラリアについてさらに理解を深めることができました。



4時間目は体育館で、バレーボールやバドミントンを楽しみました。言葉が違ってても、スポーツを通して自然に声を掛け合い、笑顔で交流する子どもたちの姿が見られました。

ランチタイムには、外でソーセージを焼いてもらい、サンドイッチにさせていただきました。友達と一緒に食事をしながら、現地の学校生活の様子を教えてもらいました。

5時間目はサイエンスの授業です。マグネシウムを燃やして化学反応を観察する実験を行いました。また、過酸化水素が分解される反応を利用した「象の歯磨き粉」の実験も行い、子どもたちは目の前で起こる大きな変化に興味津々でした。日本ですでに同じような内容を理科で学んだ経験のある生徒もいましたが、実際に現地の生徒とグループになって実験することで、学んだことを英語の環境の中でもう一度体験する貴重な機会となりました。

今日は、算数、ドラマ、歴史、スポーツ、食文化、科学と、さまざまな分野を通してオーストラリアの学校生活を体験することができました。言葉の壁に戸惑う場面もありましたが、翻訳機能を使ったり、友達に尋ねたり、身振り手振りで伝えたりしながら、積極的に交流する子どもたちの姿が印象的でした。授業や活動と一緒に楽しむ中で、言葉が違ってても「伝えたい」「一緒に楽しみたい」という気持ちが交流につながることを実感した一日となりました。



